

第6回アジア人口学会大会（ネパール・カトマンズ）

アジア人口学会は2008年に設立され、アジアにおける人口研究者が多く参加する学会であり、設立以来3年に1回、大会がアジア各地で開催されている。6回目となる今回は、2024年11月26日（火）～30日（土）、ネパール・カトマンズのソルティーホテルにて開催された。開会式には、主催トリブバン大学の学長でもあるシャルマ・オリ、ネパール首相をはじめ、前首相、地方議会代表、ネパール人口議連事務局長なども参加し、その後のセッションでは保健大臣、労働大臣も講演を行い、国を挙げての開催という形となった。トリブバン大学人口研究中央学部が国内実行委員会を率い、UNFPAおよびIOMなどの共催を得て、5日間で出生・家族の変容、国際人口移動に関する2つのプレナリーセッション、56の平行セッション、5つのポスターセッションが行われ、500名を超える参加者による報告・議論が繰り広げられた。

筆者はアジア人口学会の会長、および本大会科学委員会委員長を務め、大会企画・準備・運営を行うと共に日本の疾病・死亡統計についての報告、セッション座長などを行った。また国立社会保障・人口問題研究所からは、岩澤美帆人口動向研究部長、中川雅貴国際関係部第1室長が参加し、それぞれ報告やセッション座長を行った。中川室長は、小池司朗人口構造研究部長、藤井多希子同第2室長との共著による日本におけるコロナ前後の外国人国内移動と地理的分布に関する報告で優秀ポスター賞を受賞した。

（林 玲子 記）

国連 GCM 第2回アジア太平洋地域評価会合

「安全で秩序ある正規の移住のためのグローバル・コンパクト（GCM: Global Compact for Safe, Orderly and Regular Migration）」は、2018年モロッコ・マラケシュにて、日本を含む国連加盟164か国により承認された政府間合意である。2015年に採択された持続可能な開発目標 SDGs のターゲット10.7「計画に基づき良く管理された移民政策の実施などを通じて、秩序のとれた、安全で規則的かつ責任ある移住や流動性を促進する」の達成に向けて、その内容と一致するように作成された、国際的な人の移動についての規範を包括的にとりまとめたものである。GCM 採択後は、世界レベルと地域レベルで交互に、4年周期で評価が行われることになっており、2021年3月に開催された第1回アジア太平洋地域評価会合に続き、第2回目の評価会合がタイ・バンコク国連 ESCAP 会議場にて2025年2月4日（火）から6日（木）にかけて開催された。

筆者は日本政府代表团として参加し、「外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ」や政府の総合的対応策など、GCM の達成に資する日本の多くの取り組みについて報告・発言した。会合のプログラム・資料・発言内容・動画やサイドイベントの内容は、ESCAP のウェブ（<https://www.unescap.org/events/2025/second-asia-pacific-regional-review-implementation-global-compact-safe-orderly-and>）より閲覧・ダウンロードが可能である。

（林 玲子 記）